

漢詩とラップ

二年生の皆さん、今日は教科書百四十六ページからの「漢詩の風景」についての話をしますね。

漢詩とは中国の詩のことです。前回書いたように「詩を作る中国、土器を作る日本」ですからね。中国の詩は日本よりはるかに歴史が古いのです。中国の詩はとにかくすごいのです。詩の形も決まっており、その中にストーリーを入れ、その上、聞いても印象に残る工夫がなされています。

左の二十個並んでいる漢字が漢詩です。唐という
春眠不覺曉
处处聞啼鳥
夜來風雨聲
花落知多少

時代の孟浩然（もうこうねん）という詩人が作った「春曉」という詩です。漢字アレルギーのある人はもうこの時点でやる気が失せるかもしれませんが、今日では中国の詩のすごさを知ってもらいたいので、読めなくても、詩の意味がわからなくてもかまわないから見てください。

見てほしいのは、二行目の最後の文字と、四行目の最後の文字です。赤く色づけしておきました。それぞれ「鳥」と「少」ですよ。

これがどうしてすごいのかって？この二文字を音読みすると「チヨウ」と「ショウ」ですよ。実は、これは偶然ではありません。この位置にくる漢字をよく似た音のものにそろえるという決まりが漢詩にはあるのです。

この孟浩然という詩人は、なんと一行目の最後の文字も、似た音でそろえてしまいました。詩作に優れた人だったのでね。教科書に載っている他の詩もそうなっているのです。ぜひ教科書で確かめてもらい。これはなかなかできることではないからね。

このように、詩の決まった位置の音をよく似た音でそろえることを「押韻（おういん）」「韻（いん）」を踏（ふ）む」と言います。最近ではラップが流行っています。それもこのテクニクを使って、聞き手の印象に残りやすくしていますよね。ラップの先生は漢詩かもしれないね。

（五月十四日）